

# 問題

## 二〇二五年度 入学試験問題

### (三学部共通) 一般選抜 I期3日目

#### 国語

時間 五〇分

#### 注意事項

- 一. 試験開始の「合図」があるまで、問題冊子の中を見てはいけません。
- 二. 「受験票」は、机の上の受験番号票と並べて置いてください。
- 三. 試験開始・試験終了は、試験監督者の「始め」、「止め」の合図に従ってください。
- 四. この問題冊子のページおよび解答科目は、左の表のとおりです。

科目	問題ページ	備考
国語	1～10	

- 五. 解答用紙が別にあります。
- 六. 「始め」の合図後直ちに、解答用紙に受験番号のみを記入してください。
- 七. 試験室に入室してから試験終了までは退室を認めません。
- 八. 試験中に質問のある場合、または気分が悪くなった場合等には、手を挙げて監督者の指示に従ってください。
- 九. 「止め」の合図後直ちに、筆記を止めてください。
- 十. 退室は監督者の指示に従ってください。「受験票」は持ち帰ってください。

「Ⅰ」 次の文章を読んで、問いに答えなさい。

二一世紀も二〇年ほど経った現在、私たちは①岐路の時代を迎えている。この岐路をどう選択するか、私たちみんなが参加して、分野や立場を超えて、深く話し合う必要がある。人類を岐路に立たせているのは、環境問題と人工知能、そして社会の分断である。この三つを生み出しているのが、近代的な知である科学とその教育である。人間の発展を約束していたはずの科学とその教育が、人類にとって道を選ぶのが難しい岐路に立たせている。

(a) 環境問題の深刻さについては改めて言うまでもないだろう。環境問題とは、人間が環境の回復力（レジリエンス）を超えた大きな負荷をかけ、生物多様性を減じて、最終的に人間自身も含めて地球上の生命の貧困化をもたらすことである。とりわけ、地球温暖化は待ったなしの状態にまで達している。地球温暖化によって、海面上昇、洪水の増加、強力な台風の増加、食料と水の不足、生態系の②レッツカ、熱波の増加といった現象が生じる。その危機を示す「人新世」という概念まで登場している。

人新世とは、産業革命以降活発になった人間活動が、地球の気候条件を規定する支配的な要因になっていることを指摘した概念である。産業と結びついた科学技術が、人間に自然環境から資源を自分たちのためだけに③収奪する方法を与えた。地質学的な時代の変化には、生物種的大量絶滅が生じている。人新世は、人間を含んだ生物種的大量絶滅への予感を漂わせる黙示録的な概念と言ってよいだろう。

（中略）

二つ目は(c)人工知能（AI）の発達である。ディープ・ラーニング、ビッグデータ、ロボット工学など、近年、人工知能分野は急速に発展している。近いうちに、人工知能の能力が想像を超えた変化を文明にもたらす「技術的特異点（シンギュラリティ）」がやってくると予言する者もいる。人工知能はあまりに④カシコいので、人間を不要にしてしまうと危惧する研究者もいる。しかし私はこの危惧は（１）だと思う。人工知能は生き物ではなく、欲求も感情もなく、自発的・自律的に生きることが(d)ない。したがって、人間と同じ心を持つ人工知能は実現しそうに(e)ないし、人工知能は人間の代わりになら(f)ないであろう。

しかし問題は人工知能そのものではない。高度な人工知能が使用されることによって、社会の姿がこれまでとは大きく変わってくることが問題なのである。とくに影響を受けるのは職業であろう。オックスフォード大学のC・B・フライとM・A・オズボーンは、「雇用の未来」と題した論文で、人工知能とロボット工学の発展によって現在の仕事がどのようにコンピュータ

化されるかという予測を行った。それによれば、ホワイトカラー職であっても定式化され、形式的・機械的に処理できる仕事は、今後コンピュータによってとって代わられていく。逆に、コンピュータ化が難しいのは、複雑なコミュニケーションを必要とする仕事や、柔軟で臨機応変の対応が求められる職種、創造的な知的活動が求められる役割である。人間が担当する仕事はこれらに限定されてくるという。

実際、この予測はすでに実現されつつある。銀行ひとつ見ても、かつての窓口業務の多くがウェブ作業やATMで代行され、支店が次々に統廃合されている。「AI社会」とは、(2)ことが重視される社会でもある。創造性、創発性、身体性、個性、感性、コミュニケーションといったものが職場において、今よりもっと求められるようになる。この変化は、<sup>(8)</sup>ある意味では歓迎すべきことである。(3)、人間は機械にできる仕事は機械に任せて、より高次元でクリエイティブなこと、すなわち人間的なことに集中できるようになるからである。しかし、現代の教育界と産業界がこの変化に対応できているであろうか。AI社会にうまく適応し、より自由により活動的に生きる人間が出てくる一方で、機械に仕事を奪われ、自尊心も奪われていく人々が出現しないだろうか。

三番目の社会の分断については、さまざまな地域と国において、とくに先進国において、現在、二つの傾向に社会が分断されていることを指している。

ひとつは、社会を閉鎖し、(4)他者を排除しようとする傾向であり、もうひとつはその反対に、社会を開放し、より(5)他者を受け入れようとする傾向である。現在、多くの先進国で、移民や性的・民族的・文化的なあらゆるマイノリティを排除し、保護貿易政策をとり、伝統的な宗教や保守的な思想を<sup>(5)</sup>称揚し、進歩や変化を拒否しようとする傾向が強まっている。こうした傾向は、たとえば、米国の移民排除と保護貿易主義、英国のEU離脱、欧州におけるEUの分裂と右翼政党の躍進に見ることができる。各国で排除と閉鎖の傾向が強まり、各国民は互いに軽蔑し始めている。日本においても、外国籍の人々へのヘイトスピーチ、障害者や患者の殺傷事件が連続して起こった。そして日本人は犯罪者に対して極端に排除的である。重大な罪を犯したり、ルールを破ったとみなされる人にはもはやいかなる共感も<sup>(6)</sup>ジヒも与えられない。国際的な批判にもかかわらず死刑制度を改める気配がないばかりか、さらに厳しい罰則で報復することが(6)とされている。ネットでの「正義」による「悪者」たたきの傾向も強まるばかりである。

(河野哲也『人は語り続けるとき、考えていない 対話と思考の哲学』より。ただし、一部改変してある。)

問一 傍線②・④・⑥のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 傍線①・③・⑤の漢字の読みをひらがなで書きなさい。

問三 傍線(a)「環境問題の深刻さ」とあるが、どういう結果を招くから深刻なのか、最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア 地球温暖化が待ったなしの状態にまで達し、人間が住めなくなるという結果。

イ 人間自身も含めて地球上の生命の貧困化をもたらすという結果。

ウ 人間が自然環境から資源を奪い続け、資源が枯渇するという結果。

エ 人間が環境の回復力を超えた大きな負荷をかけ、地球が崩壊するという結果。

オ 海面上昇、洪水の増加等の現象が生じ、陸地が消失するという結果。

問四 傍線(b)『人新世』という概念まで登場している「理由として最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア 産業革命以後の人間の活動が、地球の地質に変化をもたらしたから。

イ 地質学的な時代の変化には、生物種の大量絶滅が生じているから。

ウ 人間の発展を約束していた科学とその教育によって、新しい時代が到来したから。

エ 人間活動の環境への影響が、地球の気候変動の要因となるほど大きくなったから。

オ 人間を含んだ生物種の大量絶滅への予感を漂わせる時代になったから。

問五 傍線(c)「人工知能(AI)の発達」によってということが問題となっていくか、文章の中から二十二字で探し、記入しなさい。なお、句読点・記号も字数に数える。

問六 空欄(1)に最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア 安直    イ 勘ぐり    ウ 強迫    エ 皮相    オ 杞憂きゆう

問七 傍線(d)・(e)・(f)の品詞の組み合わせとして最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア	(d)	形容詞	(e)	形容詞	(f)	助動詞
イ	(d)	動詞	(e)	助動詞	(f)	助動詞
ウ	(d)	形容詞	(e)	形容詞	(f)	動詞
エ	(d)	形容詞	(e)	助動詞	(f)	形容詞
オ	(d)	動詞	(e)	動詞	(f)	形容詞

問八 空欄（ 2 ）に最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア 人工知能でもできる      イ 人工知能に求められる  
ウ 人工知能ではできない      エ 人工知能しかできない  
オ 人工知能に限定される

問九 傍線(g)「ある意味では」とはということか、最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア 現代の教育界と産業界が「AI社会」に対応していくという意味では  
イ 人間が高次元でクリエイティブなことに集中できるという意味では  
ウ 銀行の窓口業務の多くがウェブ作業やATMで代行されているという意味では  
エ 職場において求められるものをコンピュータが代行していくという意味では  
オ 機械に仕事を奪われ、自尊心も奪われていく人々が出現するという意味では

問十 空欄（ 3 ）に最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア または      イ すると      ウ しかし      エ それに      オ なぜなら

問十一 空欄（ 4 ）・（ 5 ）に入る語の組み合わせとして最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア （ 4 ） 異質な      （ 5 ） 進歩的な  
イ （ 4 ） 非常識な      （ 5 ） 豊富な  
ウ （ 4 ） 異質な      （ 5 ） 多様な  
エ （ 4 ） 悪辣な      （ 5 ） 進歩的な  
オ （ 4 ） 非常識な      （ 5 ） 多様な

問十二 空欄（ 6 ）に最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア 非      イ 易      ウ 合      エ 是      オ 否



〔Ⅱ〕 次の文章を読んで、問いに答えなさい。

現在では、人形の処分に困った場合、「人形供養」（神社では「人形感謝祭」と呼ばれることが多い）と称して、寺や神社に人形を預け、供養の法要や<sup>①</sup>タマシイを抜く儀礼をおこなった上で焼却あるいは廃棄するということが多く見られる。この行事は古くからあるものと思われがちであるが、実は「人形供養」という言葉自体、近代に創られたもので、大正七年（一九一八）に東京・巣鴨<sup>すがも</sup>の私立帝国小学校・附属幼稚園でおこなわれたのが最初とされている。（１）、「人形供養」はもともと宗教的行事ですらなく、学校行事だったのである。同校では、校長であつた西山哲治の発案により、子どもたちのために人形を修理する「人形病院」が作られていたが、修繕のきかない人形を処分するためのものとして、児童の感謝の歌の合唱と僧侶による読経ののち校庭内の「人形塚」に<sup>②</sup>マイソウするするという「人形供養」をおこなうようになったという。また、大正一三年（一九二四）に淡島寒月を中心とした人形愛好家が、前年の関東大震災で焼亡した人形の霊を慰めるという名目で「雛<sup>ひな</sup>供養」という催しをおこなったが、<sup>（a）</sup>これもまた<sup>（b）</sup>寺社がおこなつたものではないことに注意すべきである。

現在見られるような寺社での「人形供養」が始まつたのは戦後、それも昭和三〇年代以降であるようだ。東京・上野の寛永寺清水観音堂で人形供養会が始まつたのは昭和三三年（一九五八）、京都の宝鏡寺で人形供養祭が始まるのは<sup>（c）</sup>その翌年である。<sup>（d）</sup>これ以降、「人形供養」は徐々に広がりを見せていくが、一九八〇年代に入つて爆発的に増加する。田中正流はその背景に同時代の心霊ブーム、なかでも北海道岩見沢市栗沢町の万念寺にある、髪の毛が伸びる「お菊人形」の怪談がメディアに取り上げられ、「日本人形は怖い」というイメージが定着したことが<sup>（e）</sup>大きな要因であると分析している。つまり「人形供養」を定着させたのは、まさに（２）の人形をめぐる怪談だつたということになる。

「針供養」や「筆供養」といった道具の供養は江戸時代からおこなわれていたが、<sup>（f）</sup>人形に対してはその形が採られることはなかつたようだ。文政一三年（一八三〇）の喜多村信節<sup>のぶよ</sup>『嬉遊笑覧<sup>しやうらん</sup>』には、相模愛甲郡敦木の里（現・神奈川県厚木市）では古雛を川に流す風習があつたことが記されている。また柳田國男<sup>くにお</sup>は、東京から相模・甲斐<sup>かい</sup>の境にかけて、壊れた雛人形を道の辻<sup>つじ</sup>の<sup>注一</sup>小祠<sup>しょうし</sup>や村はずれの石地蔵の<sup>③</sup>傍らに出してあるのをよく見かけたと述べ、「それが悉く不要になつた品を、粗末にしてはならぬからかうして置くやうに人は考えるが、例の目無し達磨の目を入れたのなども、同じやうに始末するのみならず、棄てた以上は随分粗末にして居るから、元はやはり藁人形など、同じに、神の形代<sup>かたしろ</sup>として送り出したものである」と結論している。<sup>注二</sup>古い人形は川に流したり辻や村境に「送り出す」のが、（３）以前の作法だつたのである。水口千里は、人形を「供養」とするという行為の背景には、人形に対する「愛着」や「愛情」、

そしてそれに起因する、人形を「かわいそう」と思う現代人の感情があることを指摘している。これを裏返して言えば、近世の人々は、人形を「かわいそう」と思うような感性を持ち合わせではないかった、ということになるだろう。また中村慎吾<sup>(h)</sup>は、人形は本来、処分されることを前提として作られた存在であったが、それが雛人形のように半永久的に形を残す存在へと変わったことによつて、人形供養が必要とされるようになったと述べている。近世の人々にとつて人形は、いつとき戯れることもあったとはいえ、それはいずれ此岸<sup>(i)</sup>から彼岸<sup>(j)</sup>へと還るべきものであった。そのようなものを「供養」しようという感性は、近世の人々のなかにはなかったのである。

かつて、人形は呪具であつた。縄文時代の土偶はそのほとんどが女性をかたどつたものであり、<sup>(g)</sup>豊饒を祈る儀礼、あるいは安産を祈る儀礼に用いられたと考えられている。また（4）の律令制のもとでは、木や金属で作られた「ひとがた」を用いて災いを避ける儀礼を執り行うのが、役所の重要な仕事のひとつであつた。そして儀礼が終わると土偶は破壊され、「ひとがた」は水に流された。つまり人形は最終的に「この世」から送り出されるべきもの、本質的に「あの世」に属するものであつたのだ。

時代が下り、人形が玩具として流通するようになって、こうした呪具としての性格は失われなかった。土人形や張子など、江戸時代に広く普及した人形の大半は疫病除けや招福など、何らかの信仰と結びついていて、現在でも寺社などで土人形や張子などを授与しているところがあるが、それらはやはり玩具ではなく信仰に<sup>(k)</sup>基づくものとして扱われており、<sup>(l)</sup>むしろそれらを玩具として扱うことは戒められてさえいる。こうした呪具としての性格は、人形が「この世」ではなく「あの世」に属するものであつて、完全に人間のものとなることはない絶対的な〈他者〉である、という認識に根ざしているように思われる。江戸時代には玩具としての妖怪人形が作られなかったという事実、「人形供養」が存在しなかったという事実は、<sup>(m)</sup>このことを裏付けるものだろう。

鳥取市用瀬町<sup>(n)</sup>には、かつての上巳<sup>(o)</sup>の祓<sup>(p)</sup>のひとがた流しを受け継いだ「流し雛」の習俗があり、旧暦三月三日から四日にかけて、<sup>(q)</sup>キョウド玩具としても知られるこの地域独特の「流し雛」を川に流して<sup>(r)</sup>災厄除けとしたが、万が一岸辺の草などに引っかかつて翌日まで流れないでいる時は、妖怪になつて家に戻ってくるという伝承があつた。これは人形が「この世」から送り出されるべきもの、本質的に「あの世」に属するものであるという〈他者〉としての人形のありようを率直に物語っている。そして江戸時代の人形をめぐる怪談もまた、そうした人形観に根ざしたものだつたと言ふことができよう。

（橘弘文・手塚恵子編『文化を映す鏡を磨く——異人・妖怪・フィールドワーク』所収

香川雅信「妖怪としての人形」より。ただし、一部改変してある。）

注一 辻——道路が十字形に交わる所。人が往来する道筋。

注二 小祠——神をまつるために立てられた小さな建物。

注三 形代——神霊が依り付く対象物。

注四 此岸——仏教用語で私たちが住んでいる現世のこと、「この世」。

注五 彼岸——仏教用語で生死の迷いから離れた悟りの境地のこと、「あの世」。

注六 上巳の祓——三月のはじめの巳みの日に、神に祈って災いを払いのける行事。

問一 傍線①・②・⑤のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 傍線③・④・⑥の漢字の読みをひらがなで書きなさい。

問三 空欄（ 1 ）に最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア しかし イ または ウ つまり エ そこで オ そして

問四 傍線(a)・(c)・(e)の品詞の組み合わせとして最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア	(a)	代名詞	(c)	連体詞	(e)	連体詞
イ	(a)	連体詞	(c)	代名詞	(e)	形容詞
ウ	(a)	代名詞	(c)	連体詞	(e)	形容動詞
エ	(a)	代名詞	(c)	代名詞	(e)	形容動詞
オ	(a)	連体詞	(c)	名詞	(e)	連体詞



問五 傍線(b)「寺社がおこなったものではないことに注意すべきである」によって筆者が主張したいのはどのようなことか、最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア 「人形供養」という言葉が創られた当時は、人形は宗教的に「供養」する対象ではなかったこと。

イ 「雛供養」という催しがおこなわれたのは、関東大震災で焼亡した人形の霊を慰める名目であったこと。

ウ 「人形供養」はもともと宗教的行事ですらなく、学校行事として始まったという点が重要であること。

エ 人形を処分するために、児童の感謝の歌の合唱のほかに僧侶による読経がおこなわれたこと。

オ 「人形供養」という行事は古くからあるものと思われがちであるが、言葉自体が近代に創られたこと。

問六 傍線(d)「これ以降、『人形供養』は徐々に広がりを見せていく」のはなぜか、最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア 髪の毛が伸びる「お菊人形」の怪談が、メディアを通して世間に広まったから。

イ 人形がもともとの呪具としての伝統を失って、玩具として広く普及し始めたから。

ウ 人形は、もともと「この世」から「あの世」へ送り出されるべきものであったから。

エ 「針供養」や「筆供養」といった道具の供養は、江戸時代からおこなわれていたから。

オ 人形が処分されずに形を残し、「愛着」や「愛情」を持つ人々が増えていったから。

問七 空欄(2)・(3)・(4)に入る語の組み合わせとして最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア (2) 現代 (3) 古代 (4) 近代

イ (2) 近代 (3) 現代 (4) 古代

ウ (2) 古代 (3) 近代 (4) 現代

エ (2) 現代 (3) 近代 (4) 古代

オ (2) 近代 (3) 古代 (4) 現代

問八 傍線(f)「人形に対してはその形が採られることはなかった」のは、江戸時代の人々が人形をどのようなものと考えていたからか。「くもの」に続く形で文章中から十五字で探し、記入しなさい。なお、句読点・記号も字数に数える。

問九 傍線(g)「豊饒」と同じ意味を表す熟語はどれか、最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア 潤沢      イ 肥沃      ウ 繁栄      エ 円熟      オ 不朽

問十 傍線(h)「人形は最終的に『この世』から送り出されるべきもの、本質的に『あの世』に属するものであったのだ」というその当時の考え方は、どのような行為となつて現れたか、最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア 「ひとがた」を用いて災いを避ける儀礼が執り行われた。  
 イ 豊饒を祈る儀礼、あるいは安産を祈る儀礼に土偶が用いられた。  
 ウ 儀礼が終わると土偶は破壊され、「ひとがた」は水に流された。  
 エ 土人形や張子などを玩具として扱うことは戒められた。  
 オ 縄文時代のほとんどの土偶が女性をかたどつて作られた。

問十一 傍線(i)「むしろそれらを玩具として扱うことは戒められてさえいる」とあるが、それはなぜか、最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア 江戸時代の人形の大半は、「この世」に属するものだったから。  
 イ 江戸時代には、「人形供養」自体が存在しなかったから。  
 ウ 江戸時代に作られた人形は、大変高価なものだったから。  
 エ 江戸時代には、「この世」に戻ってきた人形は妖怪になるとされたから。  
 オ 江戸時代の人形の大半は、何らかの信仰と結びついていたから。

問十二 傍線(j)「このこと」の説明として最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア 江戸時代に土人形や張子などが作られるようになって、玩具としての妖怪人形が作られなかったこと。

イ 江戸時代の人々が、人形は「あの世」に属するものであり、絶対的な〈他者〉であると認識していたこと。

ウ 江戸時代に人形が玩具として流通するようになって、呪具としての性格は失われなかったこと。

エ 江戸時代に広く普及した人形のはんは、疫病除けや招福など、何らかの信仰と結びついていたこと。

オ 江戸時代になっても、人形は災いを避ける儀礼に用いられるもので、儀礼が終われば水に流されるものであったこと。

国語

解答用紙一

I

問十二	問十一	問十	問九	問八	問七	問六	問五	問四	問三	問二	問一
										①	②
										③	④
										⑤	⑥

い

受験番号



国語

解答用紙二

Ⅱ

問十二	問十一	問十	問九	問八	問七	問六	問五	問四	問三	問二	問一
										③	①
				もの							
										ら	
										④	②
										づく	
										⑥	⑤

受験番号		★ ★
------	--	--------